

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 門脇浩二 編集責任者 夏野慎介 印刷所 東京印刷株式会社

3月例会報告

平成15年3月17日米子コンベンションセンター小ホールにて政治行政委員会担当による3月度例会が開催された。

まず門脇会長から、「景気は良くなる兆しを見せないが、仕事も中央会活動の方も頑張らしましょう」と挨拶があり、新入会員 柗明彦 会員にバッジ授与が行われた。

続いて、浜田次年度会長より次年度副会長の推薦があり、会員の審議の結果、野嶋会員、桑垣会員、伊藤会員、中島会員、中本会員の5名全員が満場一致で承認された。

その後、今夏のトリアスロン委嘱状が、前田実行委員長代理、夏野ボランティア部長、増井マラソン部長、中本団体ボランティア部長に手渡された。

きずな委員会松本委員長の委員長タイムの後、鳥取県西部県民局長 磯江俊二先生による「市町・村合併による企業のメリット・デメリット」と題する講演が行われた。

「市町村合併の組み合わせに正解はない。どう合併すれば少しでも良くなるか、どうすれば悪くならないかの論議である」

・西部都市を人口22万人都市にする方向をめざす。市町村合併は究極の行政改革である。



柗明彦 新入会員にバッジ授与

トリアスロン委嘱状授与

合併に伴う企業活動の影響としては、

- ①発注・納入の格付け制度
- ②許認可・登録等の制度関連
- ③関係団体の組織・規約の違い
- ④市町村の小口融資制度・融資制度・融資額の上限の差など
- ⑤一時的な新規需要

合併についてのメリット

- ・市町村長は1名、議員は32名、農業委員は30名程度ぐらいて、全体で約70名削減でき、年間約22億円の金額が削減できる。
- ・現在、専門職員(土木・福祉など)を施設に入れることができないが、市町が大きくなる事で入れることができるようになる。

合併についてのデメリット

- ・現在の米子市に施設が集中するかもしれない。
- ・市町村の方がきめ細かいサービスができる。

今後の課題

- ・小学生の人口は減っていて、65歳以上の人口は年間600~800人ぐらいて増えていき、10年後には全体の23%程度になる。(日野郡内は現在48%だが、10年後も高齢化はあまり変わらない)
- ・淀江町と米子市が合併した場合、淀江町が老朽化した施設(保育園など)の整備。

それぞれの事業により対応は異なるが、これを「チャンスと捉えるか、ピンチと捉えるか」という事が企業活動では重要とのこと。最後に講師先生がおっしゃった、「10年後はどうなるかわからない」の言葉のとおり、「企業がその時々の流れを見極め、それぞれがその時代の流れに対応していくしか道はないようだ。しかし、それは新しいビジネスチャンスを見つけていることができる時代なのかもしれない。(松原 毅)



磯江先生による講演

中央会ふりーうえい



フーズ永田の あげぼの通信

春はあげぼの…。暖かくなってきました。とっても眠いとか、黄色い砂が車にへばりついて汚いとかそんなことほっといて春はいい(花見もいい)。春眠暁を覚えず、ひねもすのたりのたりかな…なんてかったるい季節ではあるけどやはりいい。

少し緊張気味のかわいらしい新小学1年生や中学生、高校生、大学生、新社会人誰にでも新しい門出がある。(ちなみに家の子どもも4月から小学1年生と中学1年生になります)

それにしても春になると中国から飛んでくるあの黄色い砂、あれなんとかならんでしょうか。

毎年、増えてるような気がするんですけど…。車洗っても洗ってもって感じですね。

今年は黄砂襲来が終わるまで車洗いません。



言わしてごしない EPISODE 9

「今年の広報は辛口指向なんです、辛口といえば…」という原稿依頼を受けたのですが、「私はイカの塩辛か」とも言い出せば、読者はやはりウルサイ奴だと誤解を受けるので、ここはイイ先輩を決め込むことにします。独り言はこの辺にして、今日の「言わしてごしない」ですが会員間の会話について、

言わしてください。

みなさんは日頃何に気をつけて会話をされていますか。別段、私も細かい事に気をつけている訳では有りませんが、最近腹を割ってトコトコ自分の意見を論じている場面に遭遇しません。みんな何を考えているのだろうか。そう思ったことは有りませんか。何かマニュアルが細部まで縛り、自分の色が出せずに半分諦めている仲間がいるような気がしてなりません。自分の色を出せば当然叩かれる部分があります。そこを自我を通さず、相手に理解していただくよう努力して調和を計る事が肝要です。又、自分を出せば責任が掛かると、はなっから考えていませんか。中央会全体をご覧下さい。他団体にない寛容さと創作性に優れた会員が数多くいます。出席者数に表れています。自ら中心で燃えることの出来る集団にしましょうよ。中央会は昔からその度量と胆力を兼ね備えています。会員としての誇りを持って挑んで下さい。委員会が盛況で意見を副会長に押し上げ、会長が決議するのが理想です。言われた事だけでは勿体無い。トップダウン方式だけでは会の魅力は消えます。何かに燃えてはかりごとをしましょう。そうするには沢山意見を論じて楽しくやりましょう。

振り返るとよく喋る先輩が数多くいました。何でこんなに喋れるのか、とよく陰口を叩きました。私は入会当時おとなしかったのです。今はと言えば、副会長当時の新入会員は全員私の話が長いと考えています。確かに喋る会員は2N氏とI氏くらいかな。後輩たちには是非とも後継者になっていただき、委員会の時間が1時間長くなる事を望みます。「弁解を言わしてごしない」に成りましたが、この欄を私物化した事をお詫びしてペンを置きます。

(小林 慎一)

コピーをして名簿にお貼り下さい

柗 明彦 O型
東京印刷株式会社
印刷・情報業
〒683-0853 米子市南三柳929
TEL 0859-29-2311 FAX 0859-48-0003

H15.3入会 (推薦者) 中本 土井(-)
〈自宅〉米子市大津津町3450-3
〒683-0101 S46.2.26 TEL 0859-28-9107

〈コメント〉
この度、入会させて頂きました東京印刷株式会社の柗 明彦と申します。中央会の活動やいろいろな方々との出会いを通じて勉強させて頂く事で自分自身、ひと皮むけたいと思っております。そして中央会という貴重な場へ出させて頂いてる会社にもいざね恩返しができるという気持ちでいっぱいです。未熟者の私ですが、精一杯頑張りますので何卒、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

4月例会案内

とき 平成15年4月17日(木) 19:00~ ※食事 18:20~
ところ 鳥取県立武道館 2F会議室
講師 鳥取環境大学学長 加藤 尚武氏
演題 「人間と環境のきずな」
※4月例会はセミオープン例会となっております。
OB会員の参加をお待ちしております!!

4月役員会報告

役員会が平成15年4月1日(火)、米子食品会館に於いて開催されました。当日の主な議題は、次の通りです。
(1) 4月、5月例会開催の件
(2) トリアスロンの件
(3) その他

次年度を支える副会長決定!



「～青年中央会的中国大陸見聞～ 中国現地企業視察旅行記」

中央会の皆さん、妳好。去る3月5日から4泊5日の日程で国際交流委員会は中国現地企業視察を行った。メンバーは中本委員長、釜田副会長、土井監事、野口会員、長谷川会員そして渡辺の6名。当初より参加人数が減少したが視察内容は予想以上の成果を得る結果となった。以下視察旅行記を日記調で綴ってみた。

3月6日(木) 北京 曇り

天安門、故宮博物館

5日に岡山空港から韓国へ向かい、ソウルの夜を満喫。準備万端で中国に乗り込んだ我々はまず天安門、故宮博物館と見学した。そして博物館内で休憩のため立ち寄った古美術商店とある絵画に遭遇。聞けば中国で知らない人はいないと言われる徐悲鴻(じょひこう)の作品との事。しばし目をつむって検討されていた土井監事だったが気付けば何と購入されていた!そして後に続けとばかりに釜田副会長もご購入!

(夕食)火鍋料理

昼食が機内食のみという事も有り少し早めに夕食を取ることにした。料理は火鍋料理、日本で言うしゃぶしゃぶ。一日の疲れを癒すため紹興酒と白酒と燕京ビールで乾杯した。



3月7日(金) 北京 晴れ

企業視察

北京郊外の海外からの進出企業で賑わう開発工業団地へ向かった。団地内は大手企業ばかりだったが、日本の国旗が掲げられていた印刷会社にアポ無しで訪問した。出迎えてくれたのは北京日邦印刷有限公司 社長の浅田芳雄氏、勿論日本人である。飛込みにもかかわらず快くインタビューさせて頂いた。日本に本社があるが印刷とは関係ない業種で、93年に設立し中国内での印刷・出版のシェアも拡大、今は従業員200名(日本人は社長を含めて2人)の大所帯となったとの事。中国での成功の秘訣は?との問いに「パートナーが鍵となるが従業員、幹部と非常に恵まれた」「市場が中国でも最新技術・設備を導入した」との答えを頂いた。最後に年令をお聞きしてびっくり。何と39才だと言う。顔つきだけで判断すると40才中頃にも見え、やはりかなりのご苦労が有ったのであろう。

その後、パッキン等を製造する現地企業、スーパーマーケットを見学した。最後に建材店(売り場面積が広い!)にも立ち寄り釜田副会長と野口会員はフローリング材やドア等について熱心に店員に質問していた。

(夕食)北京ダック料理

企業視察も成功に終わり白酒と青島ビールで乾杯。山盛りの北京ダックは1時間後にはすっかり無くなっていた。

3月8日(土) 北京 晴れ

万里の長城

午前中は万里の長城を見学。私を含め若手メンバーは何とか上まで上がったものの年配組はさつさと茶店で油を売っていた。

(昼食)ラーメン

昼食は土井監事のクエストによりラーメン店で取ることにした。立地場所が大学の隣ということも有り店内は庶民や学生でごった返していた。ラーメンは高くても5元(1元=14~15円)程度!安い!しかも量が多い!サイドメニューも羊の串焼き等、量質共に充実していた。その後昨日に引き続き建材店へ。

(夕食)宮廷料理

視察旅行最後の夜は、宮廷料理で締め括り。途中、琵琶の生演奏も加わり大変優雅な食事となった。



3月9日(日) 北京 晴れ

ゆっくり起床した我々は一路日本へ。行きと同じように韓国経由で無事帰国した。

中国北京地区経済視察

冬中国を仲間5人と訪れた。私は5年ぶりの北京だ。空港から市街地までの高速道路、行き交う人々の服装、郊外に広がる高層住宅群、車窓から見える風景は、以前とは全く違っている。5年前、道は自転車であふれ、人民服を着ていた。人々の目は、文明や物質に対する飢えや渇きがはっきりと感じられた。が今回出会う人々は落ち着いた目をしていた。おそらく、物質や情報が国民の末端にまで行き渡り、国の将来に対する自信というものが根本にあるのだろう。

3日間の企業視察で中国進出する日本企業にアドバイスをいただいた。

①パートナーが大事(合弁相手・幹部の人選・現地採用スタッフ)

②どの層をのらうのか(生活者のレベルは幅が広い)

③品は日本最高レベルもしくは未発売の高レベルのもの

④人件費は高くなる だから安い労働力をあてにするのは将来難しい

⑤北京、上海の開発区は、小規模(2~3億)の投資は相手にしなくなっている

難しいことばかり並べた感じがするが、最後に私が大変感動した経営者の話をさせていただき終わりたいと思います。「リスクはどの国でもあります。何でも最初はゼロからです。儲かった金は配当として日本に送金できずよ。チャンスはいっぱいあります。ヤル気がある方は成功します。」(北京 日邦印刷有限公司総経理:浅田芳雄氏)

● 海を越えて

- 国際交流委員長 中本高夫
- 昨年9月の中国先遣隊につづいての訪中であつたが、まだまだ奥の深い国である。
- 2008年のオリンピックに向け、古さと新しさが共演する街といったイメージがまさに今の中国(北京)である。
- 公道を走るボンネットトラック、また自転車にリヤカーを牽引して走る商売人。その横を高級外国車がスピードを出して走り抜けていく光景をまのあたりにする。
- 古さと新しさの入り混じる中、高度成長に乗っている企業家など、国全体の人々が必死に前向きに、豊かさを求めて進んでいるように感じた。

3月度委員会報告

きずな委員会

平成15年3月6日(木) 於:米子食品会館 出席者/11名
内容/4月担当例会打合せ

情報メディア委員会

平成15年3月7日(金) 於:(株)インサイト 出席者/8名
内容/①情報政策提言

②TSCホームページメンテナンス

政治行政委員会

平成15年3月6日(木) 於:米子コンベンションセンター出席者/13名
内容/3月担当例会打合せ

モラル委員会

平成15年3月13日(木) 於:ホールサムインかいけ 出席者/11名
内容/講師講演

講師:赤石有平OB

演題:「モラルについて」

国際交流委員会

平成15年3月4日(火) 於:ホールサムインかいけ 出席者/11名
内容/中国企業視察最終打合せ

5月担当例会打合せ

会員拡大について

経営委員会

平成15年3月11日(火) 於:稲田屋 出席者/8名
内容/講師講演

講師:(株)みどり商事 専務取締役 市位清明氏

演題:「成り上がりの100円小僧がやって来た!」

広報委員会

平成15年3月5日(水) 於:(株)インサイト 出席者/11名
内容/ハンサム4月号担当割

卒会寄稿文集作成について

総務委員会

平成15年3月6日(木) 於:米子食品会館 出席者/12名
内容/例会の意識調査アンケートについて



What's 中央会 第8回

～中央会の組織と役割について～

中小企業団体中央会は、中小企業等協同組合法により事業協同組合、企業組合、協業組合、商工組合、商店街振興組合等中小企業の組合を主会員として設立された団体で、公益性の高い特別法人です。

中央会には各都道府県中央会と上部団体の全国中央会があり、具体的活動は、組合の組織化(設立)や運営指導の他、金融斡旋・税制や労働問題など中小企業の経営全般について相談に応じています。

鳥取県中小企業団体中央会の歴史は、昭和26年12月18日、任意団体として設立された鳥取県中小企業協同組合協会が母体となり、その後、昭和30年9月中小企業等協同組合法改正による中央会の法制化とともに、同年11月15日、鳥取県中小企業等協同組合中央会が創立されました。その後、中小企業団体の組織に関する法律の制定により、昭和33年4月鳥取県中小企業団体中央会と名称変更、現在に至っています。

中央会では、中小企業組合等多様な連携組織による経営資源の相互補完の支援を強化するとともに、共同研究開発に取り組む事業協同組合、企業組合など、経営革新型組合や創業・新事業展開型の組合の設立と既存組合におけるこれからの取組みを積極的に推進しています。

特に「緩やかな連携」を含む多角的連携について、中央会が有する人的あるいは企業等のネットワークを積極的に活用して、コーディネーター役を担うなど、これまでの支援経験と実績を踏まえた取組みを強化しています。

又、組合等のための助成策として中小企業活路開拓調査・実現化事業、情報化対策事業、各種研修会及び個別専門指導など各種助成事業による支援を行っており、その経費の一部については国と地方公共団体から補助を受けていることから、国や県の中小企業担当部課と十分連絡をとりながら事業を進めています。

鳥取県中央会は鳥取市に本部をおき、米子支所、倉吉出張所があります。斧谷寅之亮会長をはじめ84名の役員が選任されており、常勤職員数は22名(常勤専務理事1名を含む)で、新時代に果敢に挑戦する中小企業をあらゆる角度から支援しています。

(取材:永田 研一)